

九州ルーテル学院大学

Teaching Portfolio

2025



所 属： 心理臨床学科

名 前： 山口 倫子

ティーチングポートフォリオの作成

作成日：2025 年 4 月 25 日

教員氏名：山口 倫子

所属：人文学部 心理臨床学科

1. はじめに

ポートフォリオとは、自らのスキルや実績を示すために作成した資料のことである。私は 2024 年 4 月に本学に着任した。今回は 2024 年度を振り返り、ティーチングポートフォリオを作成した。

2. 教育の責任

本学における私の教育責任は、心理臨床学科の精神保健福祉コースにおける精神保健福祉士及びスクールソーシャルワーカー養成とそれに係る専門科目の担当である。また、学生が卒業時に精神保健福祉士国家資格を取得し、ソーシャルワーカーとしてスタート地点に立てるよう日頃から学生をサポートすることである。

(1) 授業科目の担当

2024 年度の担当科目

科目	開講年度時期	履修者数	備考
フレッシュマンゼミ	前期	23 名	共通教育必修
心理臨床学の基礎	前期	68 名	心理臨床学科専門必修
心理臨床学の展開	後期	68 名	心理臨床学科専門必修
ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	前期	31 名	心理臨床学科専門選択
ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	後期	25 名	心理臨床学科専門選択
精神保健福祉制度論	前期	29 名	心理臨床学科専門選択
精神保健福祉現場体験	前期	15 名	心理臨床学科専門選択
学校ソーシャルワーク論	後期	21 名	心理臨床学科専門選択
学校ソーシャルワーク演習	前期	5 名	心理臨床学科専門選択
学校ソーシャルワーク実習指導	通年	5 名	心理臨床学科専門選択
学校ソーシャルワーク実習	通年	5 名	心理臨床学科専門選択
ソーシャルワーク演習Ⅰ	後期	12 名	心理臨床学科専門選択
ソーシャルワーク演習Ⅱ	前期	10 名	心理臨床学科専門選択
ソーシャルワーク演習Ⅲ	後期	10 名	心理臨床学科専門選択
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	後期	10 名	心理臨床学科専門選択

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	前期	10名	心理臨床学科専門選択
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	後期	10名	心理臨床学科専門選択
ソーシャルワーク実習	通年	10名	心理臨床学科専門選択
特別研究	後期	7名	心理臨床学科専門必修

■ 主要授業科目

「学校ソーシャルワーク論」

本科目はスクール（学校）ソーシャルワーク教育課程における中核となる科目である。現代の子どもが抱える問題や課題に対し、ソーシャルワークの視点で子どもを取り巻く環境から学んでいく。本科目は私の専門領域の科目であり、本学着任前より教授経験もある。15年以上のスクールソーシャルワーカーの経験を活かし、現場に即した授業を展開している。また、スクールソーシャルワーカーを目指す学生だけでなく、将来教職を目指す学生にも広く受講されている科目である。

「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ～Ⅲ」、「ソーシャルワーク実習」

4年生の前期に実施する「ソーシャルワーク実習」に向けて、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ」において丁寧に事前学習から事前指導を行い、春休み期間中の3月に実習事前協議会を実施している。また、実習期間中は担当教員によるスーパービジョンとして巡回指導・帰学日指導を行っている。実習終了後は、「ソーシャルワーク実習指導Ⅲ」において実習の振り返りを行い、その成果を発表する場として実習指導者をお招きして実習報告会を実施している。学生が有意義なソーシャルワーク実習を行うことができるよう、担当教員が時間をかけ丁寧に一貫した実習教育を行っている。

非常勤講師

- ・「スクールソーシャルワーク論」（熊本学園大学）：社会福祉学部の一部と二部の両方で授業を展開し、教職を目指す学生の受講も多い。受講者数は25名であった。
- ・「福祉科教育法 A」（熊本学園大学）：高校「福祉」の教員免許取得希望者に対する科目である。毎年履修希望者は数名ほどで、履修者が居ない年もある。

(2) 教育組織運営

2024年度は心理臨床学科の精神保健福祉コースに所属し、ソーシャルワーカー養成に携わった。学内業務では、実習委員会、ハラスメント委員会、保育ソーシャルワーク研究所の委員会に所属し、業務に取り組んでいる。

3. 教育の理念

(1) 理念 1

学生自らが主体的に学びを進める・深めることができる大学教育

(2) 理念 2

ソーシャルワークの魅力を伝える

(3)理念3

現場で活躍できるソーシャルワーカーの養成

4. 教育の方法

- (1)大学教育は義務教育と違い、自身の関心でどんどん進め、深めることができる。授業においては、アクティブラーニングを取り入れ、できるだけ学生自らが考える時間を盛り込むようにしている。
- (2)ソーシャルワークは高校生にはあまり知られていない分野であるため、授業ではソーシャルワークの面白さや魅力を伝えられるよう努力をしている。これまで心理士を希望していた学生であっても、ソーシャルワークの考え方を知り興味を持ち、将来ソーシャルワーカーを目指す学生もいる。もちろんソーシャルワーカーを目指さなくても、ソーシャルワークの視点を持っていくと自身の生活等で役に立つ場合も多いので、自分事として考えてもらえるような授業を心がけている。
- (3) 私は大学教員である傍ら、現役のスクールソーシャルワーカーでもある。学生にはある意味、私の授業を通してソーシャルワーカーの一つのモデルを見てもらえるのではないかと考えており、できるだけ現場で起こっていることを伝える努力をしている。また、ソーシャルワーカーを目指す学生には全力でサポートしたいと考えており、これまで卒業後のフォロー等も積極的に行ってきた。卒業後は学生が自信を持ってソーシャルワーカーとしてスタートできるように養成教育を行っていきたい。

5. 教育改善のための努力

(1)改善努力1

本学の「学校ソーシャルワーク論」に加え、特に学外出講の「スクールソーシャルワーク論」では、福祉やソーシャルワークを学んでいない学生が一定数受講していたため、限られた時間の中でソーシャルワークの基本的な考え方を伝えながら授業展開をしている。また、意図的に福祉専攻の学生と教職の学生を混ぜてグループワークを行うなど、授業の中で多職種連携を実体験してもらっている。

(2)改善努力2

一般的な講義と違い、理論的な説明だけでなく、受講生には実際の現場で使うツールを使って個人ワーク等に取り組んでもらい、ロールプレイなどの体験をしてもらう。学生の中には、ロールプレイ等が負担になる学生も居るため、予め配慮が必要となる場合がある。

6. 教育の成果・評価

個人ワークやグループワークを多く取り入れており、アクティブラーニングを実践できている科目であると言える。また、学生の理解度や授業評価も概ね高い。

7. 今後の教育に関する課題と目標

引き続き、学生主体で学ぶことができるよう、授業を工夫していきたい。特にソーシャルワーク実習関連科目については、学生が充実した実習を送ることができるよう、丁寧な指導を心掛け、しっかり準備をさせて送り出したい。

【根拠資料】

- ・2024 学生生活ハンドブック（学生便覧）